

# 小, 中学校教諭と中学生に対する 社会的スキル教育のニーズ調査

中台佐喜子・金山元春・斉藤由里<sup>1</sup>・新見直子<sup>1</sup>

(2003年9月30日受理)

The survey of the needs for social skills education of elementary and junior high school teachers, and junior high school students

Sakiko Nakadai, Motoharu Kanayama, Yuri Saito, and Naoko Niimi

The present study examined the needs for social skills education of elementary and junior high school teachers, and junior high school students. The results were summarized as follows. (1) The top three skills that elementary school teachers selected for targets in social skills education were empathy, assertion, and emotional regulation. (2) The top three skills that junior high school teachers selected for targets in social skills education were problem solving, empathy, and emotional regulation. (3) Elementary school teachers thought that social skills education should be implemented more in junior high school than in elementary school, but junior high school teachers thought that social skills education should be implemented in the course of elementary school. (4) Junior high school students wanted to learn social skills such as emotional regulation, problem solving, and warm message.

Key words: social skills education, elementary school teachers, junior high school teachers, junior high school students, needs

キーワード：社会的スキル教育, 小学校教諭, 中学校教諭, 中学生, ニーズ

## 問題と目的

社会的スキルは、日常生活における対人経験を通してだんだんと学習されていくものである。かつての子どもは、家庭できょうだいの面倒をみたり手伝いをしたりする中で、あるいは地域で異年齢の子どもと遊んだりする中で、自然に社会的スキルを学んできた。ところが今日では、少子化や核家族化、あるいは都市化の進展に伴って、家庭でも地域社会でも子どもたちの人間関係は希薄になり、日常の対人関係の中で社会的スキルを学ぶ機会が激減した。自然なままでは社会的スキルが身につけにくくなっている現状の中では、学校という集団生活の場で、意図的・計画的に社会的スキルを指導する必要があると考えられる。こうした問

題意識から、最近では学級の子ども全員を訓練対象とする学級単位の社会的スキル訓練が学校現場で盛んに実践されるようになった。

学級単位の社会的スキル訓練は、社会的スキルの不足に起因するさまざまな問題を予防し、子どもの健全な社会性を育成するために行われる予防的・発達の取り組みである。こうした予防的・発達の観点を重視し、集団を対象として実施される社会的スキル訓練は、社会的スキル教育と呼ばれる(夏野・小柳・林, 2001)。社会的スキル教育の効果については、幼児(金山・日高・西本・渡辺・佐藤・佐藤, 2000)・小学生(金山・後藤・佐藤, 2000)・中学生(金山・小野・天野, 2003)を対象とした実証的研究によって明らかにされている。これらの研究結果は、おおむね社会的スキル教育の効果を実証するものであり、社会的スキル教育は子どもの社会的スキルの育成に有効な技

<sup>1</sup>広島大学大学院教育学研究科博士課程前期

法であることが実証されている。

こうした実証的研究が蓄積される一方で、現在では学校現場向けの実践指導書の出版(小林・相川, 1999)や教育雑誌への関連記事の掲載(大熊, 2000; 佐藤, 2003)など、学校現場への普及活動が活発化している。そしてついには、社会的スキル教育を特集したテレビ番組(NHK, 2001)が放送されるまでに至っている。こうした普及活動を経て、社会的スキル教育はここ数年で、教育関係者の間に急速に浸透することとなった。全国各地の教育委員会・教育センター主催の研修会などでも、社会的スキル教育は重要な教育技法の1つとして大きく取り上げられている。しかしながら、実際の学校現場では「その名称を聞いたことがある」という程度の理解が一般的といわれる(小林, 2003)。

社会的スキル教育の学校現場への普及を進めていくためには、社会的スキル教育に対する教諭の認識や評価を知るための研究が必要となるだろう。なぜなら、社会的スキル教育は、上述のように予防的・発達の観点から実施されるものであるので、実施の主体は研究者やカウンセラーではなく、学校の教諭となることが予想されるからである。そこで本研究では、小学校教諭と中学校教諭を対象に、以下の2点について調査を実施した。1つは、学校で社会的スキル教育を実施するとすれば、どのようなスキルを取り上げたいと思うかについてである。もう1つは、学校で社会的スキル教育を実施することに、どのくらい必要性を感じているかについてである。調査では、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校と各発達段階における必要度をそれぞれ評定してもらった。

こうした調査から得られた結果が、学校現場に社会的スキル教育を普及させる上で貴重な資料となることは間違いないだろう。しかし、社会的スキル教育の受け手が児童生徒であることを考えれば、教諭だけでなく、児童生徒が社会的スキル教育に対して何を求めているのか、すなわち児童生徒の社会的スキル教育に対するニーズを理解することも重要であると考えられる。そこで本研究では、中学生が社会的スキル教育でどのようなスキルを学びたいと思っているのかについても調査した。

## 方 法

### 1. 教諭に対する調査

2003年7月に、ある中学校区で開催された研修会に参加した小・中学校教諭を対象に調査を実施した。研修会のテーマは「子どもの社会性の育成と社会的スキル教育」であった。研修内容は、①スライドによる社

会的スキル教育の説明、②模擬授業による社会的スキル教育の体験、③社会的スキル教育の実践事例の紹介、④社会的スキル教育を特集したテレビ番組(NHK, 2001)のビデオの視聴、⑤質疑応答であった。研修会終了後に調査への協力を求め、回答後、その場で回収した。

### (1) 社会的スキル教育で取り上げたいと思うスキルについての調査

調査用紙には「あなたが幼稚園教諭なら幼稚園で、小学校教諭なら小学校で、中学校教諭なら中学校で社会的スキル教育を実施するとします。その際、どんな社会的スキルを取り上げたいと思いますか。下にある①～⑬のうち、取り上げたいと思うものの番号に、いくつでもいいですから○をしてください。①～⑬の他にもあれば、その他の欄に具体的にお書きください。」という教示文(当日は幼稚園教諭も参加予定だった)に続き、13のスキル(表1の①～⑬参照; 小林・相川, 1999; 宮前・繪内・阪根・藤本, 2001を参考に作成)を列記した。また「その他」用の自由記述欄も設けた。

### (2) 社会的スキル教育の必要度についての調査

「あなたは、下にあるそれぞれの時期において、社会的スキル教育を行うことにどのくらい必要性を感じますか。「まったく必要でない=1」「あまり必要でない=2」「少し必要である=3」「かなり必要である=4」「非常に必要である=5」の中から、あてはまる数字にひとつだけ○をしてください。その他にも必要であると思う時期があれば、具体的にお書きください(例:大学)。」という教示文を用いて、7つの時期(①保育所、②幼稚園、③小学校1・2年、④小学校3・4年、⑤小学校5・6年、⑥中学校、⑦高校)についてそれぞれ必要度の評定を求めた。また、「その他」用の自由記述欄も用意した。

## 2. 中学生に対する調査

2002年9月下旬から10月下旬の間に実施された、中学校における社会的スキル教育(金山・中台・新見・斉藤・前田, 2003)に参加した中学生に2003年3月中旬調査を実施した。調査対象となったのは中学生247名(1年生86名, 2年生86名, 3年生75名)であった。

調査用紙には「また今度、社会的スキル学習をしたら、どんなことを学びたいですか。学びたいと思うものの番号に、いくつでもいいですから○をつけてください。その他にもあれば、自由に書いてください。」という教示文(授業で、「社会的スキル教育」は「社会的スキル学習」と呼ばれていた)に続き、上記の教諭に対する調査(1)と同じ13のスキル(表2の①～⑬参照)を列記した。また「その他」用の自由記述欄も設けた。

## 結果と考察

### 1. 教諭に対する調査結果

小学校教諭34名（男性11名，女性22名；不明1名），中学校教諭22名（男性13名，女性8名；不明1名）から回答を得た。年齢範囲は，小学校で24～55歳（中央値=43.5；不明4名），中学校で32～51歳（中央値=41.5；不明4名）であった。勤続年数は，小学校で0（1年未満）～36年（中央値=17.5；不明6名），中学校で6～29年（中央値=19；不明2名）であった。

#### (1) 社会的スキル教育で取り上げたいと思うスキルについての調査結果

56名（小学校教諭34名，中学校教諭22名）の回答結果は全体，校種別に表1にまとめた。表1には各項目の選択人数，割合（選択人数／回答者数），順位を示した。全体では「⑧相手の気持ちを考えて接する」（同率第1位），「⑬イライラしたり，ドキドキしたりした気持ちをコントロールする」（同率第1位），「⑩自分の意見や考えをはっきりと伝える」（第3位）が上位3位であった。校種別に見てみると，小学校は上位3位が全体と一致した。一方，中学校は「⑫誤解や意見のくいちがいなどのトラブルを上手に解決する」が第1位となり，「⑧相手の気持ちを考えて接する」「⑬イライラしたり，ドキドキしたりした気持ちをコントロールする」が同率第2位となった。中学校で第1位だった「⑫誤解や意見のくいちがいなどのトラブルを上手に解決する」は，小学校では第8位だった。このスキルは「問題解決スキル」と呼ばれるもので，小学校高学年以降，大人になるにつれて洗練されていくスキルである（小林，2003）。このように，学校現場の教諭らは，社会的スキル教育で取り上げたいと思うスキルを発達段階に即して選択しているといえる。

上位にあげられたスキルのうち，小学校教諭と中学

校教諭に共通していたのは，「⑧相手の気持ちを考えて接する」「⑬イライラしたり，ドキドキしたりした気持ちをコントロールする」であった。いじめや「キレる」行動など，共感性の欠如や情動コントロールの欠如に起因すると思われる問題行動が深刻化する昨今，これらのスキルの教授は，学校現場において高いニーズを持つものと考えられる。

小学校で第1位だった「⑩自分の意見や考えをはっきりと伝える」は（⑧⑬と同率），中学校では第4位，全体でも第3位にあげられており，学校現場におけるニーズの高さがうかがわれる。また「③上手に相手の話を聞く」も全体で第4位，小学校，中学校でも第4位と上位にあげられていた。これらは，従来から教科学習の中で重視されてきたスキルである。学校における生活時間のほとんどは教科学習の時間である。したがって，学校の教諭にとって，これらのスキルを取り上げる意義は非常に大きいといえる。

#### (2) 社会的スキル教育の必要度についての調査結果

社会的スキル教育の必要度評定の平均値については図1に示した。勤続年数の中央値（小学校=17.5；中学校=19）に基づいて，勤続年数が18年以下の教諭を勤続年数短群（小学校14名，中学校7名），19年以上の教諭を勤続年数長群（小学校12名，中学校11名）に分類した。次に，記入漏れのない44名について，必要度の評定値を従属変数とした2（勤務校種；小学校，中学校）×2（勤続年数；短群，長群）×7（発達段階；保育所，幼稚園，小学校1・2年，小学校3・4年，小学校5・6年，中学生，高校）の分散分析を行った。しかし，勤続年数の主効果，勤続年数と勤務校種の交互作用，勤続年数と発達段階の交互作用，勤続年数と勤務校種と発達段階の交互作用のいずれも有意でなかった。このことから，勤続年数の効果は小さいと考え，要因計画から除くこととした。その結果，勤続

表1. 小学校教諭と中学校教諭が社会的スキル教育で取り上げたいスキル

項目	全体 56名			小学校教諭 34名			中学校教諭 22名		
	人数	割合	順位	人数	割合	順位	人数	割合	順位
① 上手にあいさつをする	21	38%	9	13	38%	9	8	36%	7
② 上手に自己紹介をする	12	21%	12	8	24%	13	4	18%	11
③ 上手に相手の話を聞く	34	61%	4	21	62%	4	13	59%	4
④ 上手に質問をする	16	29%	10	11	32%	10	5	23%	10
⑤ 遊びなどの仲間に入れてもらう	22	39%	8	18	53%	6	4	18%	11
⑥ 遊びなどの仲間にさそう	12	21%	12	10	29%	11	2	9%	12
⑦ はげまし、なぐさめなどのあたたかい言葉をかける	24	43%	7	16	47%	7	8	36%	7
⑧ 相手の気持ちを考えて接する	36	64%	1	22	65%	1	14	64%	2
⑨ 自分のしてほしいことなどを上手に頼む	16	29%	10	9	26%	12	7	32%	9
⑩ 自分にとっていやなことやできないことを上手に断る	31	55%	5	21	62%	4	10	45%	6
⑪ 自分の意見や考えをはっきりと伝える	35	63%	3	22	65%	1	13	59%	4
⑫ 誤解や意見のくいちがいなどのトラブルを上手に解決する	31	55%	5	15	44%	8	16	73%	1
⑬ イライラしたり、ドキドキしたりした気持ちをコントロールする	36	64%	1	22	65%	1	14	64%	2

年数が不明な者も分析に加えることができたため、分析対象は52名（小学校32名，中学校20名）となった。

そこで改めて，2（勤務校種）×7（発達段階）の分散分析を行った結果，発達段階の主効果が有意だった（ $F(6, 300) = 4.51, p < .001$ ）。Ryanの多重比較（ $p < .05$ ）の結果は，保育所<小学校3・4年，幼稚園<小学校3・4年，高校生<小学校3・4年であった。また勤務校種と発達段階の交互作用も有意だった（ $F(6, 300) = 2.59, p < .05$ ）。下位検定の結果，小学校教諭における発達段階の単純主効果が有意だった（ $F(6, 300) = 4.03, p < .001$ ）。Ryanの多重比較（ $p < .05$ ）の結果は，保育所<小学校3・4年，幼稚園<小学校3・4年，保育所<小学校5・6年，幼稚園<小学校5・6年，保育所<中学校，幼稚園<中学校であった。また中学校教諭における発達段階の単純主効果も有意だった（ $F(6, 300) = 3.07, p < .01$ ）。Ryanの多重比較（ $p < .05$ ）の結果は，高校生<小学校1・2年，高校生<小学校3・4年であった。なお，勤務校種の主効果はなかった。

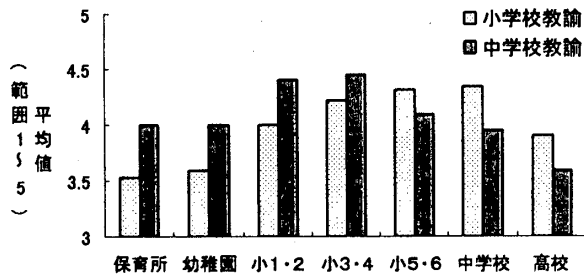


図1. 社会的スキル教育の必要度の評定値

図1を見てわかるように，小学校教諭は，保育所から中学校まで階段状に評定値が増加していた。中学校教諭は，保育所から小学校3，4年までは増加し，その後は減少していた。また，小学校3・4年より低年齢の時期には，中学校教諭の評定値が小学校教諭に比べて高く，小学校5・6年以後になると，逆に小学校教諭の評定値が中学校教諭に比べて高くなっている。すなわち，小学校教諭は中学校の時期を社会的スキル教育が最も必要な時期として捉えており，幼児期や児童期初期には，中学校教諭が思うほど，社会的スキル教育を必要であるとは思っていない。

一方，中学校教諭は小学校3・4年をピークに発達早期から社会的スキル教育を実施する必要があると思っている。ただし，評定値は勤務校種を問わず，いずれの発達段階においても3.5点以上の高い値を示しており，全体的には，社会的スキル教育は「必要である」という見解が優勢であった。

## 2. 中学生に対する調査結果

中学生に対する調査は，232名（1年生83名，2年生80名，3年生69名）から回答を得た。回答結果は全体，学年別に表2にまとめた。表2には各項目の選択人数，割合（選択人数/回答者数），順位を示した。全体では「⑬イライラしたり，ドキドキしたりした気持ちをコントロールする」（第1位），「⑩誤解や意見のくいちがいなどのトラブルを上手に解決する」（第2位），「⑦はげまし，なぐさめなどのあたたかい言葉をかける」（第3位）が上位3位であった。この傾向は学年別でもほぼ変わらなかった。ただし，3年生では「②上手に自己紹介をする」が第4位にあげられたのが特徴的であった。調査を行った時期が，3年生にとっては卒業間近であったことから，新年度の新たな出会いを想定しての回答であったと考えられる。

以上の調査結果は，社会的スキル教育に対する中学生のニーズを反映するものである。ただし，調査対象となった中学生は，調査を行った時点ですでにある特定のスキルについての授業を経験済みであったので，授業内容が調査結果に影響を及ぼした可能性がある。彼らは，「あいさつ」（「①上手にあいさつをする」に相当），「積極的な聞き方」（「③上手に相手の話を聞く」に相当），「あたたかい言葉かけ」（「⑦はげまし，なぐさめなどのあたたかい言葉をかける」に相当）についての授業経験があった（金山ら，2003）。したがって，この①③⑦の3項目への回答には，授業に対する生徒の評価が影響していた可能性がある。

そこで毎回の授業の終了時に実施していた「ふり返り」を用いて，生徒の授業評価を分析してみた。その結果，ニーズの高かった「⑦あたたかい言葉かけ」（第3位）の授業はもちろんのこと，ニーズの低かった「①あいさつ」（第13位）の授業も，「③積極的な聞き方」（第12位）の授業も，一様に圧倒的多数の生徒から肯定的な評価を受けていたことがわかった。したがって，「①上手にあいさつをする」ことや「③上手に相手の話を聞く」ことは，中学生にとって，もともとニーズの低いスキルであった可能性が高いといえる。

中学校教諭が上位にあげた「⑩誤解や意見のくいちがいなどのトラブルを上手に解決する」「⑧相手の気持ちを考えて接する」「⑬イライラしたり，ドキドキしたりした気持ちをコントロールする」は，中学生も高いニーズを示したスキルであり，中学生の社会的スキル教育において積極的に取り上げる意義があろう。これに対して，中学校教諭が第4位にあげた「⑪自分の意見や考えをはっきりと伝える」「③上手に相手の話を聞く」は，教諭の取り上げたいという思いに反して生徒のニーズは高くない（それぞれ第7位と第

表2. 中学生が社会的スキル教育で学びたいスキル

項目	全体 232名			1年生 83名			2年生 80名			3年生 69名		
	人数	割合	順位	人数	割合	順位	人数	割合	順位	人数	割合	順位
① 上手にあいさつをする	52	22%	13	18	22%	12	11	14%	13	23	33%	9
② 上手に自己紹介をする	72	31%	8	22	27%	10	19	24%	10	31	45%	4
③ 上手に相手の話を聞く	53	23%	12	18	22%	12	17	21%	11	18	26%	13
④ 上手に質問をする	61	26%	11	24	29%	7	12	15%	12	25	36%	8
⑤ 遊びなどの仲間に入れてもらう	72	31%	8	23	28%	9	28	35%	6	21	30%	10
⑥ 遊びなどの仲間にさそう	80	34%	6	32	39%	6	28	35%	6	20	29%	11
⑦ はげまし、なぐさめなどのあたたかい言葉をかける	112	48%	3	39	47%	2	38	48%	4	35	51%	2
⑧ 相手の気持ちを考えて接する	110	47%	4	36	43%	4	41	51%	3	33	48%	3
⑨ 自分のしてほしいことなどを上手に頼む	72	31%	8	24	29%	7	28	35%	6	20	29%	11
⑩ 自分にとっていやなことやできないことを上手に断る	100	43%	5	34	41%	5	37	46%	5	29	42%	7
⑪ 自分の意見や考えをはっきりと伝える	78	34%	7	21	25%	11	27	34%	9	30	43%	5
⑫ 誤解や意見のくいちがいなどのトラブルを上手に解決する	118	51%	2	43	52%	1	45	56%	2	30	43%	5
⑬ イライラしたり、ドキドキしたりした気持ちをコントロールする	126	54%	1	38	46%	3	49	61%	1	39	57%	1

12位)。教諭が取り上げる課題と生徒のニーズとの間にずれがある場合、それは授業場面において、生徒の動機づけの低下という形で示される。したがって、こうしたスキルを取り上げる際にはこの点を予測し、事前に対策を検討しておく必要があるだろう。

本調査結果は、学校現場に社会的スキル教育を導入する際の貴重な資料となるだろう。今後、実践を通じた検討を重ねていきたい。ただし、本調査は特定の地域、特定の学校の教諭及び生徒を対象に実施したものである。社会的スキル教育で求められるスキルは、地域性や学校の特性などによって異なってくると考えられる。そのため、結果の解釈にはこの点が考慮されるべきである。

## 【引用文献】

- 金山元春・後藤吉道・佐藤正二 2000 児童の孤独感低減に及ぼす学級単位の集団社会的スキル訓練の効果 行動療法研究, **26**, 83-96.
- 金山元春・日高 瞳・西本史子・渡辺朋子・佐藤正二・佐藤容子 2000 幼児に対する集団社会的スキル訓練の効果—自然場面におけるコーチングの適用と訓練の般化性— カウンセリング研究, **33**, 196-204.
- 金山元春・中台佐喜子・新見直子・斉藤由里・前田健一 2003 中学校における学校規模の社会的スキル訓練 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部(教育人間科学関連領域), **52** (印刷中)
- 金山元春・小野昌彦・天野知宏 2003 中学2年生に対する社会的スキル学習(1) 日本行動療法学会第29

回大会発表論文集, 226-227.

- 小林正幸 2003 子どもの社会性を育てるソーシャル・スキル・トレーニング11—ソーシャル・スキル教育で目指すもの— 月刊学校教育相談, **17**(1), 50-55.
- 小林正幸・相川 充(編) 1999 ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校—楽しく身につく学級生活の基礎・基本—図書文化
- 宮前義和・繪内利啓・阪根健二・藤本光孝 2001 社会的スキル訓練に関する小, 中学校教員の調査 香川大学教育実践総合研究, **3**, 33-45.
- 夏野良司・小柳直彦・林 邦子 2001 社会的スキル教育の実際 月刊生徒指導, **31**(2), 84-89.
- NHK 2001 クローズアップ現代 No.1457—学校で人とつきあう技術を教える— 2001年7月17日テレビ放送
- 大熊雅士 2000 ソーシャルスキルを活用した学級づくり—新しい教育技法を取り入れる— 教育ジャーナル, **38**(13), 16-20.
- 佐藤正二 2003 ソーシャルスキル・トレーニング—適切な対人関係能力を身に付ける— 児童心理, **57**(9), 163-175.
- 付記 本研究は、平成14年度～16年度科学研究費補助金(基盤研究C-2:研究代表者 前田健一:課題番号14591003)の補助を受けて実施された。
- 本研究にご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。
- (主任指導教官 前田健一)